ダニエル・オッテンザマー （クラリネット）

Daniel Ottensamer, clarinet

　2009年からウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者。

　デンマークのカール・ニールセン国際コンクールのほか、多くの権威あるコンクールでの受賞経験を誇る。

　ソリストとして、ロリン・マゼール、グスターボ・ドゥダメル、アンドリス・ネルソンス、ファビオ・ルイージ、ケント・ナガノらの指揮のもと、ウィーン・フィル、ザルツブルク・モーツァルテウム管、N響などと共演を重ねている。また、2021年にはザルツブルク音楽祭にソリストとしてデビューを飾り、マンフレート・ホーネック指揮／カメラータ・ザルツブルクとモーツァルトのクラリネット協奏曲を演奏した。

　ウィーン・フィルとベルリン・フィルのメンバーで構成され、クラシック、ジャズ、スウィング、フォークミュージックに取り組むアンサンブル“フィルハーモニクス”の創設メンバー。同アンサンプルとは2018年にオーパス・クラシック賞を受賞した。

　2019年からは“ウィーン・リング・アンサンブル”のメンバーとして、ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートを終えたその足で来日。シュトラウス一家のワルツやポルカを中心としたプログラムで、ウィーンのお正月の雰囲気を日本の聴衆に届けている。

　室内楽ではダニエル・バレンボイム、ユリアン・ラクリン、ミッシャ・マイスキー、ハーゲン・クァルテット、歌手のバーバラ・ボニー、トーマス・ハンプソン、ほかにもボビー・マクファーリンらと共演している。

　録音も多く、ソロ演奏ではモーツァルトとジャン・フランセのクラリネット協奏曲をソニー・クラシカルからリリース。“フィルハーモニクス”では、ドイツ・グラモフォンと専属契約を結んでいる。

　2022年には、アダム・フィッシャー指揮／ウィーン・フィルとの共演でニールセンのクラリネット協奏曲をソニー・クラシックから、また、あらゆる時代に書かれたクラリネット三重奏曲を取り上げた７枚組のディスクをデッカからリリース予定。